

元気のヒント

<42>



徳島大学病院血液内科

賀川 久美子

白血病、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫といった造血器腫瘍や、再生不良貧血、骨髄形成症候群などの骨髄不全は、これまでは治療が難しくされてきました。しかし近年、「造血幹細胞移植」が発達し、これらの治療が期待できるようになってきました。

造血幹細胞とは、骨髄の中で赤血球や白血球、血小板を生み出している細胞です。赤ちゃんとお母さんを結ぶへその緒と、胎盤の中に含まれるさい帯血の中にも造血幹細胞は豊富に存在します。また、「G-CSF」などという薬剤を投与した場合などは、骨髄から全身の血液に流れ出すことがあります。

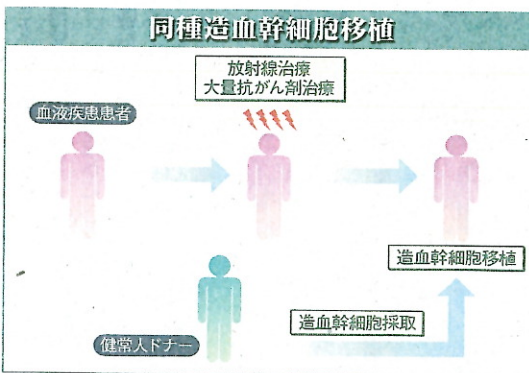
造血幹細胞移植

移植と言っても、手術をするわけではありません。がん化した血液細胞や、血液をつまぐ作れなくなった造血幹細胞を、抗がん剤や放射線治療で死滅させ、輸血と同じように、正常な造血幹細胞を患者に点滴します。

あらかじめ保存しておいた自分の造血幹細胞を用いる方法を「自家移植」と呼び、主に悪性リンパ腫や多発性骨髄腫の患者に行われます。一方、ドナーから造血幹細胞の提供を受ける「同種移植」は、主に白血病や骨髄不全の患者に行われます。

白血病などの治療期待

55歳以上も治療可能に



「同種移植」は、HLA と呼ばれる白血球の型が、ドナーと患者で一致していることが条件です。HLA は両親から遺伝的に受け継ぎ、兄弟姉妹では4分の1の確率で一致するとされていますが、非血縁者間で一致する確率は数百〜数万分の1といわれています。

造血幹細胞を採取する方法には、直接骨髄液を採取する方法と、「G-CSF」を投与した後に、末梢血から採取する方法があります。

従来行われてきた造血幹細胞移植は、大量の抗がん剤や放射線による副作用が強く現れるため、55歳くらいまでの若い患者しか移植を受けられませんでした。しかし近年、副作用を落とした「ミニ移植」という移植が発達し、臓器機能が保たれていれば55歳以上の患者も移植を受けることができるようになりました。

2010年の全国集計では、55歳以上の移植患者数は全体の20%以上を占めています。

徳島大学病院では、造血幹細胞移植を受けられる患者に、医師や看護師、歯科医師、歯科衛生士、薬剤師、栄養管理士、理学療法士、臨床心理士など多くの職種の治療スタッフが協力して、チーム医療で治療に当たっています。移植件数は年々増加しており、これまで多くの患者が病気を克服し社会復帰しています。

開始し、3〜4週間ほどで血球が回復(生着)します。患者は、生着までの間は無菌室に入居する必要がありますが、生着が確認できれば一般病室に転室し、体調が良くなれば退院できます。